

活用事例	<b>5</b> 土砂災害警戒情報が出た場合の避難訓練 <b>【特色】</b> 市の防災実働訓練への参加による地域と連携した防災体制の整備		
学校名	山口市立平川小学校		
日時	平成25年11月10日(日)		
場所	各教室・廊下・体育館 運動場	参加者	児童・教職員 平川自治連合会他 協力団体

## 1 訓練のねらい

### <学校のねらい>

平川地域を対象として実施される山口市防災実働訓練に参加し、避難訓練（豪雨に伴う災害発生が予想される状況）や、展示見学・体験学習をとおして、危機対応能力や防災意識の向上を図る。

### <山口市防災実働訓練の目的>

台風接近に伴う豪雨において、災害対策本部、水防支部及び連合自治会等の連携により、避難勧告の伝達及び避難等の実行動を行い、災害発生が予想される場合の対応能力の向上を図る。

この際、関係機関等の参加により、連携要領も併せて訓練する。

## 2 訓練の概要

### (1) 避難訓練の想定

- 台風接近による豪雨の発生
- 榎野川・九田川水位の急激な上昇で越流・内水はん濫の恐れ

### (2) 指導の重点

- 災害の状況など、放送内容や指示を正確に聞き取らせる。
- 豪雨に伴う災害時の対応の仕方を理解させる。
- 避難場所・避難経路を確認し、安全な避難の仕方を身に付けさせる。

### (3) 事前指導内容

- 放送は2回繰り返す。2回目まで確

実に聞いた後、次の行動（避難）に移ること。

- 「押さない・かけ出さない・しゃべらない」で移動すること。
- 豪雨だけでなく、大雨の時には河川や溝が増水したり、土砂崩れが起きたりして危険なので、できるだけ外に出ないこと。
- 浸水の恐れがあるので、屋内では上階に移動すること。
- 避難勧告が出た場合は、速やかに避難すること。

### (4) 避難要領

- 放送を聞いてから迅速に行動
  - ・ 各校舎1階の学級のみ、同じ校舎の2階廊下へ移動する。
  - ・ 各校舎2階・3階の学級は、教室で二次避難に備えて整列して待機する。

### <放送>

「緊急放送、緊急放送。大雨により九田川の水があふれ出す恐れがあります。1階の教室のみなさんは、2階へ避難してください。2階、3階のみなさんは、教室で待機してください。担任の先生方は、全員避難が完了したことを確かめたら学年主任へ連絡し、学年主任は、各学年担当の先生に報告してください。」



<担任の役割>

- ・緊急放送後（2回）、児童を整列させる。
- ・移動が必要となる学級、教室待機となる学級共に2列縦隊で整列させ、先頭で学級表示板を掲げる。出席簿を携行する。

<留意事項>

- ・保健室にいる児童は、養護教諭が誘導する。
- ・身体的・情緒的に避難が難しい児童については学年部で配慮する。
- ・専科・少人数担当教員は、各校舎階段付近で安全確保を行う。

- 人員の確認後、口頭により連絡・報告をする。

学級担任→学年主任→学年担当教員→教頭→校長

- 校長講評（全校放送による）

(5) 各種防災関連企画への参加

- クイズへの参加：1・2年児童



大学生による〇×クイズ（災害に関する知識）

- 展示車両の見学及び体験：3・4年児童



自衛隊・警察車両の見学



起震車で地震体験

- 展示ブースの見学：5・6年児童



消防署・下関地方気象台による展示

- 防災ヘリの見学：全学年児童



防災ヘリによる孤立者の救助

### 3 訓練の成果と課題

#### 【成果】

- ◇ 豪雨により市内で甚大な被害を受けた後であったため、河川の氾濫や土砂崩れを想定した避難訓練の実施は、危機意識を高める上で効果があった。
- ◇ 山口市防災実動訓練にあわせて避難訓練を実施したため、児童にとって、より本物に近い体験学習ができた。また、避難の際の携行品や、避難所生活での具体物の工夫について知る機会となった。
- ◇ 教職員にとって、地域と連携した防災体制整備の必要感を高めることができた。

#### 【課題】

- ◆ 大規模校であること、校舎が3棟あり2階・3階に渡り廊下がないことなどから、緊急時の連絡・報告の方法を検討する必要がある。
- ◆ 今後、保護者への引き渡し訓練も必要である。